



日本赤十字国際人道研究センター 主催

濃尾地震から125年

～今、考える震災救援と復興への道～

1891年(明治24年)10月28日、愛知・岐阜両県にまたがる濃尾地方を内陸地震では過去最大といわれるマグニチュード8の大地震が襲い、死者7,000人以上を出す大災害となった。日本赤十字社が初めて養成した救護員たちは未体験の被災者救護にあたり、現在の救護体制の礎を築いた。125年前の先人達の救護の実相を明らかにすると同時に、今年、熊本地震に見舞われた現地の被災状況と復興への行程を報告する。

※左上下画像出典元：国土地理院・熊本市／右上下画像出典元：日本赤十字看護大学所蔵 史料集第十一巻

● 報告者 川原 由佳里 日本赤十字看護大学 准教授

梶山 哲男 日本赤十字社 熊本県支部 振興課 課長

● 司会 井上 忠男 日本赤十字国際人道研究センター 所長

【日時】 2016年 9月 21日 (水) 16:00 ~ 17:30

【会場】 日本赤十字社本社 201会議室 (参加費無料・事前登録不要)

【問い合わせ】 日本赤十字国際人道研究センター TEL:03-3409-0882